

テクニカル・レポート

Dr.バシラス 春菊の観察

TT-008

2011/2/18

Dr.バシラス投入の春菊と未投入の春菊とで観察をする。
それぞれの春菊はDr.バシラスの投入以外はほぼ同一条件で育てるものとする。

- 1]2010年10月上旬定植。定植時に1度Dr.バシラス1000倍液を散布する。
2010年12月下旬2度目のDr.バシラス1000倍液を全体に散布する。



- 2]2010年12月24日の収穫時期の春菊の根っこの状態



- 3]収穫量の違い

	一日当たりの収穫量
例年	100ケース
当年(Dr.バシラス散布)	150ケース

- 3]コメント

Dr.バシラスを投入した春菊は明らかに根の量が増え、生き生きとしている。収穫量は例年の1.5倍となった。例年脇芽を収穫するごとに葉が黄色くなるため追肥をしていたが、今年は3回収穫しても葉が青々としており追肥のタイミングが遅らせることが出来た。

- 4]考察

Dr.バシラスに含まれる微生物が土中の有機肥料分を分解、細分化することにより、植物の栄養の吸い上げが改善され植物の成長は促進される。